様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２６ 日現在

機関番号：３３７０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2016
課題番号：２４５２０３２３

研究課題名（和文）アジア系アメリカ文学にみる日本植民地主義批判ー暴力、ジェンダー、人種

研究課題名（英文）Criticism against Japanese Colonialism Depicted in Asian American Literature in terms of Violence, Gender and Race

研究代表者
河原崎　やす子（KAWARASAKI, Yasuko）

岐阜聖徳学園大学・外国語学部・教授

研究者番号：８０３４１８０８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はアジア系アメリカ文学に帝国日本の占領統治がどのように表象されているかを作品の収集および分析で明らかにすることを目的とした。近年アジア系文学テクストには日米双方の戦争や植民を描くものが数多く出現し、帝国日本の植民地主義への批判的表象が目立つ。まず多くのテクストを収集しその分析を通して、関連文学作品の一覧を作成し包括的な考察を試みた。さらになぜアジア系作家がアメリカ経由で日本植民地主義批判をするのかを日米両国の植民地主義の位置づけとその受容の相関と相違を絡めて分析した。新たな知見として、日本批判を間接的客観的に行う新世代作家の傾向を検証した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to examine how the occupational periods of Imperial Japan are represented in Asian American literature. In recent years, not a few Asian American authors show their keen interests in the history of their Asian homeland, depicting Japanese occupation periods mostly in critical ways. I first made up a list of related literary works, then analyzed them both comprehensively and individually. I found a new tendency in which authors of younger generation depict historical episodes in somewhat critical but indirect manners, which seems to lead readers to evaluate the history by themselves.

研究分野：アジア系アメリカ文学・文化

キーワード：アジア系アメリカ文学　日本植民地主義批判　太平洋戦争　真珠湾攻撃　従軍慰安婦

１．研究開始当初の背景

帝国主義を包括的、体系的に論ずるアジア系アメリカ研究は数少なく、ことに文学分野事態に関する研究は乏しい。しかしアジア系アメリカ文学に日本のアジア侵略および植民を取り上げてものは多く存在し、日本の植民地主義に関連する文学研究は待ち望まれている。その観点から本研究では、アジア系アメリカ文学における日本植民地主義批判を何らかの形で示す作品を、歴史学、社会学、人類学、法学などを取り入れて関わらせつつ、体系的、学際的な論考を試みる。

本研究者は、これまでジェンダー、オリエンタリズム、ポストコロニアリズムなどの観点からフィリピン系アメリカ文学を中心に文学研究を続けてきたが、とりわけ科研費を受けたアジア系基地文学と回帰線アメリカ文学の研究を通じ、日本植民地表象に対する問題の所在を認識した。基地文学では米軍基地をめぐるアジア系文学を分析し、回帰線アメリカ文学では、米西の植民体験を持つ回帰線領域の国から米国への移民による文学のポストコロニアル故国表象を考察したが、いずれにおいても日本の植民地主義が今後の研究課題として浮上したのである。つまりアジア系アメリカ文学と基地文学、回帰線文学の交点ともいうべき領域にあるのが日本植民地主義の研究と考えられる。焦点となるのは、アジア系アメリカ人がアメリカから日本批判をすることの意味、日米植民の相関関係、ポストコロニアルの故国と日本植民の関連などである。

２．研究の目的

本研究は、アジア系アメリカ人の文学に帝国日本がどう表象されているかを分析するものである。まず認識すべきは、アジア系アメリカ人の多くが植民抑圧により移民を余儀なくされた経緯を持つことと、日米両国がアジア太平洋地域への植民侵略の歴史をもつことである。今日の米国の軍事国際戦略が日本帝国の支配体制の多くを継続しており、日本と米国の植民体制は敵対ではなく相補的かつ共犯的だという視点を基本的認識とする。これをふまえて、アジア系アメリカ人がいわば米国経由で日本植民地主義批判をすることを、次の枠組みで考察する。

(1) ポストコロニアル状況の故国寄りの立場から、帝国日本批判を展開する。

(2) 米国植民との比較で日本植民をより残忍と位置づけて批判する。

(3) 日米いずれも故国のアイデンティティをはく奪した植民者として､併置して批判する。

この枠組みからの考察は、アジア系文学を帝国主義視点から分析することに他ならない。帝国日本に言及する文学作品の対象となるのは、広範なアジア太平洋地域からの移民文学でもある程度限定される。主力はフィリピン系、韓国系、中国系、グアム（チャモロ）系で、研究過程において台湾、沖縄、ハワイなどの地域も加わる可能性がある。ジェンダー、暴力、人種というカテゴリー別に作品を分類し分析視点を併記する。

① ジェンダー関連作品－慰安婦、売春など

② 戦争関連の暴力をめぐる作品–殺人、収奪、放火、拉致、追放、強制移住など

③ 人種抑圧関連作品–強制連行、軍への徴収

最終的に出来る限り多くの作品を網羅して精査し、帝国日本批判のひとつの系譜を作成する。その際、アジア系移民が米国から日本批判をすることの意味およびそれがポストコロニアル故国表象とどう関連するかについての考察を展開する。本研究はアジア系アメリカ文学研究に新領域を開くことが期待される。

３．研究の方法

(1)文献調査：

①植民地主義批判に基づく歴史概念の構築

②ポストコロニアル批評を展開するアジア系アメリカ文学批評関連

③フィリピン系文学（多くは日本植民を米国の植民と併置し両者ともに糾弾する）

④韓国系文学（慰安婦問題など）

⑤中国系文学（南京事件など）

⑥チャモロ（グアム）系文学

以上の文献を収集し、理論的枠組み概念およびテクストの分析を行った。

⑵ 現地調査：日米両国において調査、研究を行った。①2012 年度は米国ニューヨーク市とロサンゼルス市において作家および研究者のインタヴューを行い、エスニックタウンを歴訪して新たな情報や知見を得た。なおチャモロに関する研究の成果としてグアム大学の学者との知己を得た。②2013 年度はハワイに赴き真珠湾のアリゾナ記念館を訪れ太平洋戦争の発端を確認し、ハワイ大学では研究者と交流し様々な示唆を得た。またアメリカ、ロサンゼルスを訪問しグレンデ―ルに建立された慰安婦少女像を探訪した。ここで現地の状況を実体験するとともに韓国系コミュニティでの反応を探索した。③2014 年度も米国ロサンゼルス市に赴き、韓国系と中国系コミュニティを中心にコミュニティリーダーや学者、学生との意見交換を行った。④最終年度は戦後 70 年の記念として多くの記事や書物が出版され、その収集と分析に集中した。ロサンゼルスのＵＣＬＡのアジア系アメリカ学部でも多くの記念行事が予定されており、そのいくつかに参加することが出来た。ことにリトル東京の全米日系人博物館における展示は参考となった。

４．研究成果

アジア系アメリカ文学は従来、ステレオタイプや移民国アメリカへの同化とアイデンティティ、家族やコミュニティといった移民に共通する問題を主要テーマとして、アメリカ文学の主要ジャンルとなったといえる。しかし次第にアジアの出身国を描く作品も多くな

り、近年の作品にはアジアにおける日本の植民統治を取り上げる作品が散見される。従来の中国や韓国、ヴェトナムなどに加えて、グアムやシンガポール、マレーシアなどからの米国への移民太平洋が戦争の記憶を文学として続々と発表しており、その作者は戦後生まれのきわめて若い世代までが含まれる。アジア系の戦争関連作品は主にアメリカが関わったアジアにおける戦争を取り上げるのが通例だったが、出身国における日本の植民統治を批判的に描く作品が近年目立って多くなっている傾向に注目した。アジア系が偏見と差別に直面した過去においては、結束して対抗する必要があり、ことに日系人は強制収容から戦後の成功の歴史を持つリーダー的存在であったために、日本批判に通じる出身国の歴史にアジア系が目を向けることはまれであったと見られる。しかしアメリカのアジア系も故国自体もある程度社会的に安定した現在、アメリカから植民の過去を振り返るようになったとみられる。それは記憶によって故国を再定義しようとする行為だと位置づける事が出来る。

そこでアジア系アメリカ文学において、日本侵略を取り上げた作品の作家がどのような陣容になるのか、詳細な作品分析をして代表作と生年から以下の表を作成した。なおスペースの関係上一部氏名と題名を省略してある。

日本侵略を扱うアジア系アメリカ文学一覧

作家名	生年	作品名
中国系		
M. Kingston	1940	*The Woman Warrior*
Wing T. Lum	1946	*The Nanjing Massacre*
Amy Tan	1952	*Kitchen God's Wife*
Ha Jin	1956	*Nanjing Requiem*
韓国系		
Richard Kim	1932	*Lost Names*
Therese Park	1940	*A Gift of the Emperor*
Theresa Cha	1951	*Dictée*
Chang-raeLee	1965	*A Gesture Life*
Nora O Keller	1965	*Comfort Women*
Susan Choi	1969	*The Foreign Student*
フィリピン系		
J. Hagedorn	1949	*Dogeaters*
N Rosca	1946	*State of War*
C. Brainard	1947	*When the Goddess Wept*
Tess Holth	1966	*When the Elephants Dance*
Z. Linmark	1968	*Leche*
M. Syjuco	1976	*Ilustrado*
香港系		
Janice Lee	1970	*The Piano Teacher*
シンガポール系		
Sandi Tan	1972	*The Black Isle*
チャモロ（グアム）系		
P. Howard	1940	*Mariquita*
T. Taimanglo	1972	*Attitude 13*
Craig Perez	1960	*from UNINCORPORATED TERRITPORY*

（2016 年までに出版された作品）

上記はあくまでも作品を出身国系列で並べた一覧であり、当初挙げたカテゴリー別の分類に依ってはいない。それは各作品がいずれも包括的に 3 つの項目を取り上げる傾向を見せているために、不可能だと思われたからである。ただしコロニアリズムに関する 3 つの枠組みについては、以下に述べる分析が可能であった。

いずれの作品も日本植民に対してきわめて厳しい視点を示しているが、米国との対比という点では大きな相違を示している。それは包括的にみると、作家の世代と関連しているといえる。まず戦争体験を持つ世代の作家には、米国の植民や米国の対日戦争を支持しあるいは比較の上でより好意的に描き、時には救世主の位置づけをする傾向がみられる。

ただ上記の表の作家は多くが戦後生まれであり、その中では 40 年代～50 年代生まれの作家とそれ以降の作家の間で、明らかに作風がかなり違うという特徴がみられる。前者は移民 1 世か子ども時代に移民した 1.5 世が主力で、後者はアメリカ生まれの 2 世以降である。当然、戦争の記憶が体験としてあるかどうかも世代で異なっている。また、アジア系の移民が 1965 年の移民法改正以降に急増したことを考えると、その新たな波もこの傾向と関連していると思われる。その違いとは日本侵略統治の取り上げ方であり、世代によって文学表現が異なるという大まかな傾向である。上記 40 年代から 50 年代生まれの作家は、日本侵略を正面から取り上げてテーマに絡める傾向にある。また米国と日本の植民の比較という点では、古い世代の作家が日本を激しく批判し、それと比して米国の植民を擁護する傾向にある。これに対し、新しい世代の作家は込み入った形での日本植民統治の告発をしたり、告発とまではいかずに歴史の記憶をたぐりよせ読者に評価をゆだねるといった手法を取る傾向が強い。また米国に対しても同様に手厳しい視線を投げかける。これは当初予想していなかった世代間の思考と手法の相違という興味深い分析結果である。後者世代の問題意識は、今なお継続する故国の混乱状況を直視し、過去の清算がなぜ出来ないかというところにある。それはとりもなおさず国と個人のアイデンティティという問題に深く絡むという点で、その前の世代につながっているのである。

本研究はアジア系アメリカ文学を研究する日本人として不可避の問題を掘り下げたものでありその点では貢献できたと考えるが、戦争の記憶という点において不足する部分も多く次の研究につなげる予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）
河原﨑やす子、「日本の植民統治の記憶―近年のアジア系アメリカ文学に見る傾向」『岐阜聖徳学園大学紀要』［査読有］第 56 集、(2017)13-23
河原﨑やす子、「記憶される日本の東南アジア侵略―『ブラック島』にみる抑圧の歴史」『多民族研究』［査読有］第 9 号、(2016)54-76
河原﨑やす子、「戦争文学として読むチャンネ・リーの『降伏せしもの』－「飢え」と「降伏」から見えるもの」『岐阜聖徳学園大学外国語学部紀要』[査読有]第 54 集、(2015) 29-38
河原﨑やす子、「グアムにおける植民地主義の告発－喪失と回復をめぐるチャモロの声」『*AALA Journal*』［査読有]No.18, (2012) 55-63

〔学会発表〕（計　0 件）

〔図書〕（計２件）
小林富久子監修『憑依する過去』[査読有]金星堂、河原﨑やす子、「フィリピン系文学にみる日本の植民統治―抑圧と抵抗のかたち」小林富久子、石原剛（他 18 名、4 番目）、(2014) 44－61
岐阜聖徳学園大学外国語学部編『ことばのプリズム―文学、言語、教育』河原﨑やす子、「米軍基地の意味―アジア系アメリカ文学からの考察」角田信恵（他 6 名、1 番目）、彩流社、(2013) 11－32

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
河原崎　やす子（KAWARASAKI Yasuko）
岐阜聖徳学園大学外国語学部・教授
研究者番号：８０３４１８０８

(2)研究分担者
なし　　（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
なし　　（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
なし　　（　　）